

真常先生

1. 人間が活動している以上、砂漠化などの「環境破壊」は遅らせられたとしても、完全なる防止は難しいのかと考えてしまうが（人口が増加する限り）、農学者として研究の方向性はまずは「荒廃」を遅らせることによって猶予を作り、その間に更なる対策を考える時間を作る、という風に考えているのか。地域の「荒廃をやわらげながら収量を上げることで、人口が増え、地球全体として荒廃を促進している可能性」というのは存在するのか。御意見をお聞かせください。

回答：「荒廃」によって一番影響を受けるのは、貧しい農民です。彼らの生活を少しでも良いものにするには、質問者がおっしゃるように、「荒廃」をまずは遅らせることが重要だと私も考えています。

「人口が増え、ますます荒廃が進む」というのは、少々短絡的過ぎると思います。地球全体でみれば、現在の生産量ですでに今の人口を十分養えていて、問題は、生産物が正しく流通していないことにあると主張する人もいます。農学者ができることは、どのような生産のあり方が土地を荒廃させるかを広く知ってもらうことですが、今後はそれだけではなく、土地を荒廃させないあるべき流通に対しても、積極的に関わっていくべきだろうと思っています。

2. 砂漠化の進行プロセスのスライドで、土地荒廃をめぐる悪循環にはまってしまうと対処できないと述べられていましたが、その場合、何か少しでも対処方は無いのでしょうか。

回答：その対処法のひとつとして、我々が開発した耕地内休閑システムを紹介しました。

3. 地下水の活用と雨季中の地下への吸収作の研究はされているのでしょうか。池、河川については消滅するでしょうから、地域的にも低地での対策が効果の確認がなされるのではないのでしょうか。

回答：当地域における地下への水の浸透については、深さ2mから浸透水を採取できる装置を利用して研究しています。我々が開発した耕地内休閑システムによって、地下への浸透水量が増える結果となっています。現地では、乾季に井戸水を利用した小規模の野菜栽培が行われています。野菜の生産・販売が、住民の生計安定に一役買っています。

全員

1. アフリカ地域における農地の敬称は長男となるのか？次男以下は新たに野内を開拓す

るといった形になるのか？

回答：アフリカにおける一般的法則はありませんが、子供全員で土地を細分して相続するという話をよく聞きます。

2. アフリカ地域での研究や現地の生活文化、社会を踏まえて、日本の社会の向上に参考になるポイントやヒントがあれば教えていただきたい（農業、食、地域社会分野において）。

回答：経済的効率だけではなく、伝統や歴史といった過去を振り返る作業が技術普及においては重要であることを実感しています

3. 滞在中の食事の手配はどうしていたのか。現地の方との食の違いでトラブルは無かったか。

回答：研究する地域において、手配の仕方は様々ですが、今回の講演で紹介したニジェールでは、共同研究者とともにアパートを借りて自炊していましたので、食事上のトラブルはありませんでした。村に泊り込んでの調査の場合は、住民に食材をわたして食事をつくってもらい、おいしくいただきました。とはいうものの、長期の調査になると、日本食が恋しくなるときもあります。